

令和3年度病害虫防除情報

令和3年10月12日

発表：福島県病害虫防除所

イチゴでハダニ類の発生が多くなるおそれがあります。

蔓延する前に防除を徹底しましょう！

- 1 対象作物：イチゴ
- 2 病害虫：ハダニ類
- 3 対象地域：全域

[発生状況]

- 1 県内全域で発生を確認しています。
- 2 発生ほ場割合は平年並でしたが、前年よりもやや高く、発生程度の高いほ場も認められています(図1)。
- 3 天候予報(10月7日仙台管区气象台発表)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後、ほ場内で急激に増殖するおそれがあります。

[発生生態と被害]

葉裏に寄生することが多く、葉面からの吸汁により被害が生じます。吸汁加害を受けた葉表側には、白っぽいかすり状の被害痕が生じ(写真2)、寄生数が多くなると葉全体が生気を失うとともに、ハダニ類の吐糸によりクモの巣で覆われたようになって萎縮し、枯死に至ります(写真3)。



写真1：ナミハダニ

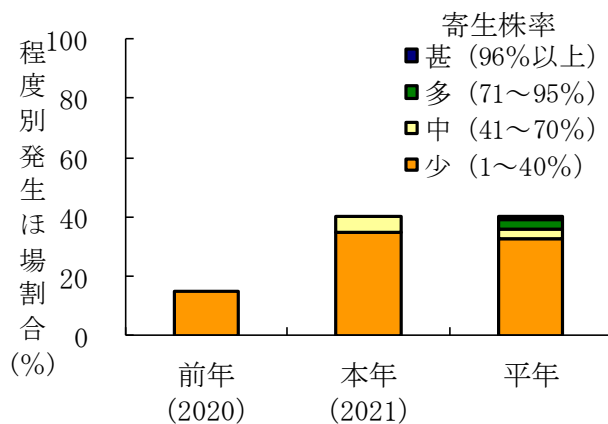


図1：ハダニ類の発生状況(10月上旬)

[防除対策]

- (1) ハダニ類は葉の裏に多く寄生するので、薬剤は葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。
なお、茎葉が繁茂している場合は古葉を摘葉して防除を行う。
- (2) 既に多発しているほ場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の散布むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら複数回散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する(表1)。
- (4) 天敵製剤(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等)を使用しているほ場では、ハダニ類の発生状況に応じて、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
- (5) 薬剤散布の際は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
- (6) 農薬使用基準を遵守し、適正な農薬散布作業の実施と安全で効果的な防除に努める。
- (7) 施設を加温する前に防除を徹底する。



写真2：ナミハダニによるかすり状の被害痕

写真3：ナミハダニの多発によるクモの巣症状

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	薬剤系統	イチゴ 2001年 農試	キュウリ 2002年 農試	キュウリ 2003年 農試	キク 2004年 農試	イチゴ 2008年 防除所	イチゴ 2013年 防除所	イチゴ 2015年 防除所	イチゴ 2018年 防除所
アグリメック	6	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	3A	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	6	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	20B	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	13	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	6	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	25A	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	25A	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	25B,21A	—	—	—	—	—	—	—	△
ニツラン水和剤	10A	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	10B	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	21A	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	20D	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1)◎：効果高い、○：効果が劣る場合あり、△：効果が劣ることが多い、—：未検定

(◎：すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○：死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)

注2)※は、殺卵効果を検定。

●情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください。本情報は、福島県病害虫防除所ホームページ

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)でもご覧になれます。

TEL：024-958-1709

FAX：024-958-1727